

## 67 借入前にカードローンは返済しよう!

借入をする前に、私は先生方に手持ちの資金がある場合には、クレジットやカードローン等の債務を可能な限り返済するようすすめている。これは、高い利息のローンを先に返済することもあるが、実は借入を行うにあたって無駄な信用情報の残高を減らすことで、信用を高めることができるからだ。

実は、クレジットやローンは後払いの契約なので、「この人なら返済してくれる」という「信用」が必要となり、申し込んだ人が全て契約できるわけではない。この「信用」を判断するための材料の1つとして必要となってくるのが、過去から現在までのクレジット履歴を表した「個人信用情報」だ。この「個人信用情報」は、個人全体の「信用」を集約して把握するもので、クレジット会社は個人全体の経済的信用度が正確にわかるようになり、個人の多重債務を未然に防止する仕組みになっている。

日本では、CICをはじめ、クレジット・銀行および消費者金融の各業界がそれぞれ独自に個人信用情報機関を設置している。そのほかに全業種横断型の個人信用情報機関があり、4つの機関ともに会員制を取っている。具体的には、どこの金融機関が上記のどの個人信用情報機関を利用しているかは、ここで記載できないが、その機関が重複している金融会社から先生が借りている場合には個人信用情報は集約されることになるので、借入を拒否されないためにも可能な限り返済しておくことをお勧めする。

具体的な信用情報機関は以下の通り。

## ①株式会社シー・アイ・シー (CIC)

<http://www.cic.co.jp/>

主に割賦販売等のクレジット事業を営む企業を会員とする個人信用情報機関

## ②全国銀行個人信用情報センター (KSC)

<http://www.zenginkyo.or.jp/pcic/index.html>

主に金融機関とその関係会社を会員とする個人信用情報機関

## ③全国信用情報センター連合会 (全情連) 加盟の個人信用情報機関

<http://www.fcbj.jp/>

主に貸金業者を会員とする個人信用情報機関

## ④株式会社シーシービー (CCB)

<http://www.ccbinc.co.jp/>

主にクレジット・金融業を営む企業を会員とする個人信用情報機関

## ⑤テラネット

<http://www.teranet-corp.co.jp/>

クレジット事業、リース事業、保証事業、貸金業等の与信事業を営む企業が会員とする個人信用情報機関